

【特別養護老人ホーム 泉の杜】

＜サービス評価実施日：令和元年12月10日＞

施設の概要	施設名称等	<p>特別養護老人ホーム 泉の杜 (定員70名) 〒679-2121 兵庫県姫路市豊富町神谷3041-20 TEL079-264-8170 FAX079-264-8171 (URL) http://www.izuminomori.com (E-mail) info@izuminomori.com 平成16年5月1日 開設</p>
	施設長名	宮本 智恵子
	基本理念	<p>泉の杜は、利用者様一人ひとりの生活リズムを尊重致します。 住み慣れた地域の中で、利用者様主体の自由でのびのびとした 暮らしが送れますように介護支援し、利用者の方々ที่ただ漫然 と消化するだけの日々を送るのではなく、生きているという実 感を持てますように努力致します。</p>
	居室	居室70部屋 (1人部屋70室)
	併設事業	<p>短期入所生活介護 (介護予防含む) 通所介護 (介護予防・日常生活支援総合事業通所介護) 居宅介護支援 訪問看護 (介護予防含む) 訪問介護 (介護予防・日常生活支援総合事業訪問介護) 障がい者居宅介護 重度障がい者介護 同行援護 移動支援</p>
特徴的なサービス事例	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画策定には全職員が参画し、目標を設定して年間の取り組みが実施されている。 ・職員は半期ごとに各自の目標を掲げ、施設長は年1回職員全員との個別面接を実施し、職員との信頼関係も構築され設立以来の職員が多く働いている。 ・居室には収納スペース、天井上、床下収納を完備している。 ・美容室を完備し、月に1度の訪問がありカラーなどにも対応できるようにしている。 ・「地域の中で、安楽に、のびのびと」のコンセプトに沿って、各フロアには広々とした多目的ホールやリビング、談話コーナーがある他、家族宿泊室、パソコン室を完備し、利用者のニーズに応じた生活が可能である。 ・月に1回の選択食と駅弁の日とおやつバイキング、年1回寿司職人を招いてバイキング、季節のお弁当作りやリクエスト食にも対応している。 	

特徴的な
サービス
事例

- ・栄養士が献立確認を行いその都度メニューを変更する等きめ細やかな対応をしている。
- ・入浴時、個別に留意点を書いてある表があり、職員間で情報の共有ができています。
- ・施設周辺は緑が多く、居室からの眺めも良く長閑な風景を常を感じる事ができる。
- ・隣接する協力病院があり、急変時の対応に早急に協力が得られる医療サポート体制が整っている。
- ・眼科医の往診があり、施設で眼科医の診察を受けることができる。
- ・看護師の就業時刻が20時までの枠があり、夕食時の急変に早期に適切な対応ができています。
- ・月に1回行われる医師を含む各部署責任者の施設内巡回時に、介助の際の留意点など助言を得ることができる。
- ・転倒リスクの高い方を選出し、転倒時の大腿骨骨折を回避するためのヒッププロテクターを導入し、利用者の行動の抑制を軽減できるようにしている。
- ・看取り利用者は医師へ毎日状況報告し、変化があれば往診が可能である。
- ・家族の宿泊室があり、遠方の家族の訪問や看取り期でもいつでも家族が利用できる設備があり、様々な用途で利用できる。
- ・生魚・青果物を提供、鍋行事・すしバイキング時は粥食の利用者用にゼリーで固め、同じように食べて頂ける配慮など食に対し多様に取り組みされている。
- ・利用者の誕生日には厨房でケーキを焼き、ユニットでデコレーションをしてお祝いをしている。
- ・お菓子の移動販売があり、楽しむ機会がある。
- ・屋上に菜園スペースを設け、花や作物を植え育て、収穫の楽しみを味わうことができる。
- ・アニマルセラピーを導入し、利用者の表情の変化や、精神的な安定をもたらす効果がある。
- ・苦情解決の経過や結果は、プライバシーに配慮しながら対応策を施設内掲示し、見える化を図っている。
- ・家族会主催の「清掃デイ」が開催されている。
- ・小学校のクラブ活動や自治会の活動に施設フロアを開放して交流を図っている。
- ・平成18年にファミリー会を設立し、喫茶コーナー（カフェ）、茶話会、泉の杜祭り、バザー、ふれあい清掃などの様々な活動を通じて積極的に家族と連携を図っている。
- ・週に2回「喫茶ふくろう」と名付け家族が喫茶コーナーを担当している。
- ・ユニットだよりや広報誌、ホームページやフェイスブックを活用し、利用者や施設の情報を伝達・発信している。
- ・広々とした各フロアと、ホールから見られる景色は季節が味わえるとても豊かな環境である。
- ・利用者の信教の自由を保証し、配慮している。また、信仰上の理由で食せない食品については代替食の提供を行っている。
- ・各階に床暖房も完備した自由スペースがあり一面が全部窓になっており日光を取

	り入れられ外の景色が見渡せる、開放感と自然の温かみを感じられる空間で、主に行事やイベントの際に利用している。
施設全体の 総評	<p>開設15年目、姫路市で最初にスタートしたユニット型特養で、施設からは桜の木立を望めるなど、落ち着いた自然豊かな環境の中にある。</p> <p>地域の声、願いから生まれた施設であり、基本理念にその思いが詰まっている。「基本理念実現のためのユニットケア」の向上に向けて施設長をはじめ、職員全員で家庭的な環境や個別性の高いケアに積極的に取り組んでいる。</p> <p>今後も理念の実現に向けて現在の実践を深め、また地域との協力や他施設との連携等関係性を広げながら、地域になくてはならない施設となることを期する。</p>

受け入れ施設による評価後のサービスの質の向上に向けた取り組み

(1) サービス評価事業を受け、次年度につなげていきたい項目、課題について

① 基本理念の浸透

・全ての職員が理念の意味を周知し、それをサービスにどう活かし成功体験につなげていけるか

② 食事を豊かにするための環境づくり

・殺風景になっている食事環境をどのように工夫していくか

③ 家族・地域との連携

・面会や行事への参加が少ないご家族への関わり方をどうしていくか、また、高齢化・過疎化する地域との交流をどう図るか

④ 生活支援 利用者とのコミュニケーション

・利用者様とのより良いコミュニケーションをどのように図っていくか

⑤ 認知症高齢者への対応

・認知症の理解をどのように深めていくか

(2) (1) の項目についての具体的な方法について

① ・施設全体会議の場を設け、トップの口で理念の意味とそれに基づく法人の運営方針を説明する機会を増やし、理念実現のために個々がどのような仕事をしたかを問いながら成功体験を積み重ねていく。

・個人カード以外にもタイムカードの個人打刻カード裏に理念を記す、会議や朝礼の前に唱和する、などして理念に触れる機会を増やす。

② ・ユニット内のテーブル移動や装飾等を工夫し、五感で楽しめる食事空間を作る。

・センターフロアや屋上をもう少し活用して食事の雰囲気を変えてみる。

③ ・変化しつつある現代の生活様式の中で、利用者様・ご家族が施設に何を求めておられるのかを知り、施設との関りの頻度が二極化するご家族への対応法を検討していく。

・施設の取り組み事例の報告会や、地域からの要望を聞く会を開くなど施設と地域との情報交換の場を設ける。

④ ・言葉遣いについて等、強化したい接遇目標を立て、職員間で互いに注意しやすい環境を作っていく。

・1日のシフトの中で利用者様との数分間のコミュニケーション時間を確保していく

⑤ ・年間研修計画にある外部研修会への参加、内部研修会の開催等を各委員会から発信したり、外部講師の招集を年間計画に入れ込むようにし、全職員が研修に参加する機会を

設ける。

- ・認知症高齢者のできない部分に目を向けず、できるところを探しそれを委員会や会議等の中で全体に広め共有していく。